

市民協働によるまちづくりへ

市民討議会で 21名が意見を出し合う



青年会議所と市で組織する五所川原市民討議会実行委員会が、7月26日、市民学習情報センターで市民討議会を開催しました。

市民討議会は、市民協働によるまちづくりを推進するため平成24年度から実施しており、今年で3回目。

無作為に抽出した1500名の市民へ参加案内書を送付し、参加を希望した45名から抽選で決定した21名が「五所川原の未来に向けて」人口減少時代を乗り切るためのまちづくりを考えよう」をテーマに意見を出し合いました。

コーディネーターを務める平井太郎弘前大学大学院地域社会研究科准教授から、低出生・高死亡率・高社会減という人口減少の大きな要因となる課題に対して、

意見を出し合う参加者の皆さん。
市の人口減少の要因や対策方法を付せんに書きこみ、それぞれ分類。
人口減少予測を覆すためのまちづくりに自分たちができる活動を討議結果としてまとめます。

他地域における市民協働による先進的なまちづくりの情報提供を受け討議がスタート。5つのグループに分かれ、①人口減少の原因について考えよう②人口減少に歯止めをかけるためには？③私たちにできる人口減少対策という順序に沿って五所川原市の未来に向けた話し合いを行いました。さまざまな立場から市民目線による「私たちにできる人口減少対策」のアイデアを議論し、最後にグループごとに討議結果を発表しました（概要は下表参照）。

平井准教授は、急速に進行する人口減少は地域社会の存立基盤にかかわる問題であることに触れ「人口減少対策は、行政のみでなく市民一人ひとりが協力して、できることからはじめの一步を踏み出すことが重要。皆さんが手を携えてまちづくりを行うことが現在の未来予測よりも20年先の五所川原市を希望の持てるまちにする」と総括しました。

参加した皆さんから出されたまちづくりに対する提案については、幅広い世代の潜在的な意見として現在策定中である次期五所川原市総合計画に反映させ、市政への市民参画を推進することとしています。

発表内容の概要

資格支援バックアップ制度

高校で企業や大学を巻き込んだイベントを実施し、生徒が企業の求める人材や資格を適切に理解することで、自身の将来像を描きやすくするとともに、学校側でその資格を取得できる支援体制を整える。

郷土愛がまちをつくる

学校で地域の歴史、郷土芸能など住民参加による授業を行い、郷土を学ぶ機会をつくり、郷土愛を醸成する。また、郷土について学んだ成果を発表する場を設け、多世代間のふれあいなど、地域全体にさまざまな波及効果を生み出す。

心を豊かに!! 地域環境向上

人口減少の要因である心理的不安と地域環境の対策として①人とつながろう運動②まちをよく知ろう運動③まちをもっと良くしよう運動の3つの取組を3本の矢として一体的に実施し、住みよい豊かなまちづくりを行う。

津鉄沿線移住・定住プロジェクト

津鉄沿線の空き家・遊休農地といった地域の未利用資源を移住者に提供し、移住による就農を促進する。移住者の定住を促し、住みよい地域生活を形成するため、津鉄の駅舎をコミュニティ活動の拠点として活用する。

廃校利用型総合宿泊施設を作る

既存の廃校を総合的宿泊施設として活用し、食事も宿泊もできる地域の交流拠点として各教室を減塩レシピの産地消レストランや伝統芸能の保存・継承など、さまざまな用途に活用する。

討議結果は、報告書としてとりまとめ、後日市長へ提出します。